



団体紹介

東日本大震災で吹田市に避難している被災者がおられることがわかり、2011年5月避難者支援を目的として吹田市のボランティア団体等が集まって「復興支援市民会議」を立ち上げました。

避難者との好み焼きやバーベキューパーティーを開催し、避難者の話を聞くことから始めました。

避難家庭の多くが、小学生以下のお子さんとの避難であることがわかり、子育て避難家庭の安心づくり支援を検討し、避難家庭の心配の第一は子どもの不安解消と考え、子どもの学習支援や寄り添い支援並びに付き添いで来る親世代の交流を目的として東日本大震災被災者支援「チームおせっかい」を8月に設立、10月16日第一回学習サポートを開始、避難者をつなぐ活動を進めることとなりました。

「チームおせっかい」の仕事は、避難者と地域のボランティア団体等との交流の場づくり、情報の提供にあります。

チームおせっかい

学習サポートでは、学生が子ども達と向き合って、子どもを元気にし、親世代には、親世代が抱える悩みに対応できるボランティア団体等に連携をお願いしました。

学習サポート風景

2015年は、大阪府下を超えて兵庫、滋賀、和歌山で、行政・ボランティア団体等と連携し、法律相談、健康相談、健康チェック、健康体操、就労支援、進路相談、住宅支援等、学習サポートという手法によって避難家庭の悩み解決のための場づくりを展開しています。

また、茨木市の中村町自治会の餅つき大会で、避難者がふるまう芋煮会を共同開催し、地域の皆さんに避難の現実を知っていただく機会をつくれたのも、地域が避難者に寄り添える環境づくりを「チームおせっかい」活動として継続した成果ではないかと思っています。

今後の各地区の開催日は、まるっと西日本の情報誌に掲載しています。

東北と大阪を繋ぐ情報紙

第46号：平成27年4月



いもにかい

発行 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア・市民活動センター
住所：〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター内
Tel：06-6765-4041
Fax：06-6765-5618

協力 大阪市各区社会福祉協議会

ゴールデンウィーク「里帰りバス」申し込み開始!

東北・関東と大阪をつなぐ「里帰りバス」の運行詳細が決定しました。ゴールデンウィークの帰省などにお役立てください。



運行期間：5月1日(金)～5月5日(火)
対象：東日本大震災により関西に避難している人
参加費：無料
定員：35人(応募多数の場合は抽選)
締切：4月6日(月) 17:00まで
問合せ：大阪市ボランティア・市民活動センター
申込み：☎06-6765-4041(担当：赤星・浜辺)

※申込み時に詳細をお聞きします。
※当落のご連絡は4月7日～10日に電話にて随時行います。
※4月10日17時までにご連絡が取れない場合は、次の方を繰り上げ当選とします。
※乗降場所は参加者の状況により寄らない場合もあります。
※詳細については、当選者の方のみに後日郵送にてお送りします。
※往路または復路のみの利用もできますが、調整させていただきますのでご了承ください。
※一人でも多くの方にご利用いただけるよう、キャンセルされる場合はなるべく早くご連絡ください。

5/1	- 行程 -		5/5
20:30 <出発>	大阪市立社会福祉センター (天王寺区東高津町12-10)		8:00 <到着>
↓			↑
5/2			
5:00 <到着>	東京駅(東京都)		21:00 <出発>
↓			↑
8:20 <到着>	いわき駅(福島県)		18:30 <出発>
↓			↑
9:55 <到着>	郡山駅(福島県)		16:30 <出発>
↓			↑
12:00 <到着>	仙台駅(宮城県)		15:00 <出発>
	5/3		5/4



連絡先

東日本大震災避難者支援「チームおせっかい」 代表 青木良三
〒564-0062 吹田市垂水町1-39-20
TEL：06-7504-5090 E-mail：sien@hukusi.or.jp

方言の交差点

—東北弁と大阪弁が出会う場所—

関西の美味しい言葉「しゅんでる」

「このおでん、ようしゅんでるわ」の「しゅんでる」は「しゅむ」という言葉に状態を表す「～ている」が接続した言葉です。「しゅむ」の語源は「しむ(染む)」。『万葉集』に登場する古語です。「なかなか人にあらずは酒壺に成りにてしかも酒にしみ(染み)なむ」。酒壺になれば酒に浸って体に酒を染みこませることができる。これは無類の酒好きだった大伴旅人の歌です。

「しむ」は各地に伝わり形を変えました。東北では「しもる」「すもる」「しもう」「すもう」などの報告があります。一方で大阪を中心とした関西では「しゅむ」と発音し、「気が塞ぐ」「気が小さくなる」という意味も表したそうですが、「しゅんでる」ほどは耳にしません。「しゅんでる」は食材に味が十分染みこんでいる状態を表す言葉として、食事の場面で重宝されているようです。



しゅんでるわん

【方言募集】どんな疑問・質問でも結構です。ぜひ、ご連絡ください。
住所：〒567-8502 大阪府茨木市西交威 2-1-15 追手門学院大学
E-mail：yukushib@otemon.ac.jp
追手門学院大学国際教養学部講師 柳引祐希子

編集後記 ある国際協力雑誌の記事で、灯油ランプで夜遅くまで勉強するケニアの子ども達。部屋は煤で黒ずみ、健康が心配される中、日本の援助で太陽光ランプが導入、みんな笑顔です。ああ、素晴らしい！
一方、オーストラリアに嫁いだ娘さんの所に遊びに行った知人の話。「太陽光スタンドランプがあって、昼間、庭で充電すると夜3～4時間は十分読書できるのよ。買って帰ろうとしたら、お母さん、日本は技術が進んでるんだから売ってるわよ、って言われたの。あなた、知ってる？」
うーん、見たことありません。どなたかご存知でしたら教えてください。(あかほし)



問合せ 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
申込み 大阪市ボランティア・市民活動センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10
TEL：06-6765-4041 / FAX：06-6765-5618
Email：imonikai@osakacity-vnet.or.jp(担当：赤星・浜辺)
《利用時間》月～金曜 9:30～20:30
土曜 9:30～17:00(日曜・祝日及び年末年始休館)

☆情報紙 IMONIKAI は毎月1日発行です。
情報掲載希望の方は、毎月15日までにご連絡下さい

予告!



ホッとネットおおさか避難者交流会

5月17日(日)

11:00～15:00

大阪府立大学 I-site なんば
(南海なんば第1ビル2階)

場所 (地下鉄御堂筋線「大国町」(1番出口)より 徒歩7分
南海電鉄「なんば」(中央出口)より 徒歩12分

対象 東日本大震災により関西に避難している人

※詳細は次号チラシにて！お楽しみに！

こころから語り合いたい

本心を打ち明けられる人がまわりにいない、遠くに離れていて頻りに話ができない…つらくてひとりぼっちだと感じる時があります。どうしたらよいのでしょうか。

辛い、悲しい気持ちを受け止め してくれる家族や友人に話を聞いてもらえるだけでもほっとします。しかし、その人たちが身近に居ない、ゆっくり話す時間がないと、自分の中に抱え込んで辛い気持ちがいつまでも消えません。こんな時にはその代役を見つけていきましょう。
・同じ体験をした人と話しましょう。説明しなくても分かりあえるでしょう。
・周囲にそのような人が見当たらない時は、地域の支援者に尋ねてみましょう。ピアの会などを紹介してもらえます。
・専門家も辛い気持ちを乗り越えるお手伝いをしますので相談してみましょう。

桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授 郭麗月

情報掲示板

お得なご招待や日々の暮らしに役立つ情報など



大人は次代の責任を！ 日本に原発が安全なところはない



本誌第44号で20人のご招待をいただいた講演会「福島いま・日本いま～大人の責任として、私たちはどのように生きるのか?～」の報告です。会場は、博愛社構内にあるスタンドグラスの美しい聖贖主教会礼拝堂。講演は、小出裕章さん(京都大学原子炉研究所 助教)と森松明希子さん(原発賠償関西訴訟原告団代表、東日本大震災避難者の会 Thanks&Dream 代表)です。木の長椅子は全て埋まり、200人近い人が集まりました。

森松さんは福島県郡山市から大阪へ母子避難をし、4年を迎えようとしています。「避難者にはそれぞれの決断、思いがあって状況は百人百様だが、多くの共通点がある」と避難に至るまでを語りました。

4年間かけ続けている水は、汚染水として増え続けています。現場に長時間いればいる程被爆してしまうので作業は簡素化され、タンクからどんどん汚染水が漏れている状態です。まだ事故は収束していません。

避難生活への決心

地震が起きたときは、二人の幼子と家にいました。家はだめになりましたが、津波被害もなく、その日のうちに無事家族と合うことができました。

もうひとつ本当によかったと思ったのは、避難所に電気と水があったこと。これで情報が得られる、この水で何日かしのげると思ったからです。ですが、数日後東京の水で放射線量が出たと知りました。福島原発から60kmしか離れていないこの水が汚染されていないはずがありません。毒だとわかってわが子に与えなければならぬ…私たち夫婦だけでなく、多くの親がこのつらい決断をしたと思います。

子どもの通園時は、マスクに長袖、長ズボン、子どもが道端の落ち葉や小石を拾おうものなら、親は鬼の形相で怒っていました。県外の公園で「この石ころ持って帰っていい?」と怯えたように聞く子どもを見て、これではいけないと避難を決めました。その後、大阪に地縁があったことで避難ができ、夫の理解があって避難生活を続けています。

原発はクリーンで安全、という学校教育を受けてきましたが、同時に広島・長崎の戦争教育も受けてきました。その2つが同じ危険なものとして今理解できるのは、原爆を経験した人々が語り継いでくれたお陰です。知った者が、気付いた一人ひとりが声をあげてゆくということが大人の責任であり、大切なことだと思っています。

小出先生は、「こんなに莫大な危険を抱えた機械は使うべきではない、事故が起こる前に何とか止めなければ」と、一貫して原発反対の立場をとっておられます。科学者の目から見た、福島で起きたことや現状を、わかりやすく話しました。

東日本大震災の時、福島で起きたこと

炉心が溶けてしまった1~3号機には、4年経った今でも誰も行けません。行けば即死、コンピューター(IC回路)は放射能に弱いため、誤作動をおこしてしまいます。炉心がどこにあるのか、どんな状態なのかかわからない。こんな過酷な事故は原発以外ありえません。



放射線管理区域というもの

私の研究所は、4万ベクレル/m²の放射能を取り扱うため、街から離れた山の中にあります。

ここは放射線管理区域と呼ばれ、トイレはなく、水も飲めず、食べることもできません。外に出る時は、きちっと計測し、4万ベクレル/m²以内でないとはドアが開きません。日本には、4万ベクレル/m²を超えているものはどんなものでも持ち出してはならないという法律があるからです。

事故後、放射性管理区域に相当するかそれ以上の放射線量の中、いまだにたくさんの人たちが、暮らしを強いられています。法律があったのに、日本政府はそれを反故にしてしまった。勝手に逃げると言われて逃げられる人は多くはないでしょう。残れば被爆により身体が傷つき、避難すれば生活や家庭が崩壊し、心がつぶれてしまう。日本が法治国家なら、国家の責任でコミュニティーごとと逃がすべきです。

司法の決断

一方、希望もあります。司法が変わってきました。大飯原発差止請求裁判において、「人格権の尊重」を謳い、「命と電気代を比べてはならない。国民の生活こそが国富である」と差止請求を認める判決をだしました。

都合が電気の恩恵を受けるために、危険を過疎地に押し付けてきました。ですが、日本にある50数基の原発から250km圏内で円を描くと、日本全国安全な場所はどこにもないのです。忘れていたいという思いと、忘れさせようとする思惑から、報道の減少がみられます。そして今、原発再稼働、輸出の拡大が進んでいます。

たべもの放射線量

基準を決め、その数値を境に「安全」と決めるやり方は間違っていると思います。でも、その農産物も、生きるために作っているものです。その土地で生活を強いられている人がいる現実と、原発を容認してきた我々の責任として、大人達は受入れるべきではないでしょうか。ただし、子どもは絶対避けねばならなりません。まず守るべき子どもの命を大事にし、そしてみんなが被爆しない社会を作るべきなのです。



ご招待

時空を超えたコラボレーション 特別展 ガウディ×井上雄彦

建築家・ガウディ
1882年着工以来、現在も建設が進められているサグラダ・ファミリアはガウディ没後100年にあたる2016年に完成予定。

漫画家・井上雄彦
「SLAM DUNK」は国内発行部数1億部突破。京都・本願寺に描いた親鸞の屏風絵など漫画家の枠にとどまらない活動も行う。

「日本スペイン交流400周年」を記念した展覧会。ガウディ自筆のスケッチ、図面など貴重な資料約100点とともに、井上雄彦がガウディの物語を表現、描きおろした作品約40点が展示されます。東西異なるジャンルにおける世界観の融合を楽しめる特別展です。

会期：3月21日(土)～5月24日(日)
10:00～18:00
(入館は閉館30分前まで)

休館日：毎週月曜日(5月4日(月・祝)は開館、5月7日(木)は休館)

場所：兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階
(JR「灘」駅下車 徒歩約10分、阪神電車「岩屋」駅下車 徒歩約8分)

ご招待：5組10人(抽選)

申込み：大阪市ボランティア・市民活動センター(担当:赤星・浜辺)
(電話・メールにて。全員の名前・住所・TELを添えて)

締切：3月28日(土)
※4月4日頃の子チケット発送をもってかえさせていただきます。



ご招待

大坂の陣400年 特別展 大坂 -考古学が語る近世都市-

今年は、大坂夏の陣から400年。大坂城建設以前から時代を追って、30年にわたる発掘調査の出土品を展示します。他にも、大坂の歴史や文化、暮らしがよくわかる古絵図や古文書、絵画作品などが一堂に勢ぞろいする特別展です。



髪油を入れる油壺や餐水入れ、内面に濃い紅液を塗って売られた紅血など。鉄製壺は、お歯黒液を作る時に使われた。
化粧道具 18～19世紀 中之島蔵屋敷跡出土
方形桐文金箔瓦 16世紀 大坂城跡出土 大阪歴史博物館蔵

会期：4月18日(土)～6月8日(月)
9:30～17:00(金曜日は～20:00)
(入館は閉館30分前まで)

休館日：火曜日(5月5日(火・祝)は開館、5月7日(木)は休館)

場所：大阪歴史博物館 6階 特別展示室
(地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅2号・9号出口)

ご招待：3組6人(先着順)

申込み：大阪市ボランティア・市民活動センター(担当:赤星・浜辺)
(電話・メールにて。全員の名前・住所・TELを添えて)

締切：3月28日(土)
※4月4日頃の子チケット発送をもってかえさせていただきます。

無料イベント

映画上映会(豊中、京都) 「FALLOUT」(邦題「死の灰」)

「FALLOUT」は反核映画「渚にて」の制作過程を記録したドキュメンタリー映画です。(2013年、オーストラリア・日本語字幕・86分)
上映会後は、来日しているプロデューサーのカウフマン氏との懇談会があります。

参加無料で豊中・京都の2ヶ所で開催されます。お近くの会場へどうぞ。

豊中
日時：3月24日(火)
14:00～16:00
場所：とよなか国際交流センター 会議室2AB
(阪急宝塚線「豊中」駅下車すぐ)

京都
日時：3月25日(水)
18:30～
場所：ひとまち交流館 京都
(京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分、市バス「河原町正面」下車すぐ)

「渚にて」は1959年に公開され、世界中に大きなセンセーションを巻き起こしました。第三次世界大戦によって壊滅する地球を描き、核の恐怖を訴えた映画です。「FALLOUT」をご覧になる前に、こちらもどうぞ。参加費無料です。

日時：3月14日(土) 18:30～
場所：ひとまち交流館 京都

交流会 イベント 3月 Cafe IMONIKAI コンサート

毎月第4水曜日開催の交流会☆今回は昼から素敵なコンサートがあります。途中参加・途中退室は自由。当日参加も大歓迎です。☆保育あります。希望される場合、事前予約をお願いします。

日時：3月25日(水) 10:00～15:00
※昼食は各自でご利用ください。
場所：大阪市立社会福祉センター 3階
(地下鉄「谷町九丁目」駅、近鉄「大阪上本町」駅11番出口)

歌が大好き! たくさんの人と素敵な時間を共有したい! と各方面で活動しているコーラスグループ MCA。

東日本大震災「こころのケア」ボランティア支援 無料
JAICO 日本産業カウンセラー協会
被災者・ご家族向け 訪問カウンセリング

「よく眠れない」「なんとなく気がふさぐ」「慣れない土地で話し相手がない」「将来に不安がある」など
ひとりで悩まず、どんなことでもご相談ください。

※相談は無料。プライバシーは固く守られます。
お問合せ・ご利用申込み
06(4963)2357

